

## 参考資料

### 平成28年度大学入試センター試験（本試験）の試験問題の評価について（外部評価分科会）

大学入試センター試験は、「大学に入学を志願する者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定する」試験として実施されている。このことに照らし、試験問題評価委員会は、本試験の試験問題について、以下の項目別（7項目）及び総合的観点から適切であったかを、枠内の評定値により5段階で評価した。

評価結果は、次ページのとおりである。

#### 1 項目別評価

- (1) 高等学校学習指導要領の範囲内から出題されているか（出題範囲）
- (2) 単に知識だけではなく、思考力や応用力等を問う問題も含まれているか（思考力）
- (3) 出題内容は、特定の教科書や特定の分野・領域に偏っていないか（出題内容）
- (4) 試験問題の構成（設問数、配点、設問形式等）は適切であるか（問題構成）
- (5) 文章表現・用語は適切であるか（表現・用語）
- (6) 問題の難易度は適正であったか（難易度）
- (7) 得点のちらばりは適正であったか（得点のちらばり）

#### 2 総合評価

1の項目別評価を踏まえて、総合的に評価すると、大学入試センター試験の試験問題として適切であったか

（評定値）

- 5 あてはまる
- 4 ある程度あてはまる
- 3 どちらともいえない
- 2 あまりあてはまらない
- 1 あてはまらない

科目名	国語
-----	----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、「国語総合」の教科書で扱われる程度の文章から出題されており、適切であった。古文の素材文がここ数年と比較するとかなり読みやすいものであった。
(2) 思考力	5	基礎・基本を重視しながらも、新学習指導要領を意識した論理的思考力を問う設問も増加した。今後も同様の作問を期待する。
(3) 出題内容	5	授業において日々行われている学習の成果が明確になる設問が多く見られ、適切であった。今後は、文章の要約等、客観問題では問うことが困難とされる作問も期待する。
(4) 問題構成	5	表現効果や段落構成を問う設問が含まれているなど、各設問の視点が多様であり、適切であった。80分の時間制限の中で、全ての問題を無理なく解答できるような配慮がなされていた。
(5) 表現・用語	4	選択肢において、受験者の混乱を招きかねない表現や、文の長さを揃えようとするあまり不自然になったと思われる表現があった。
(6) 難易度	4	全体の平均点は129.39点と、昨年度よりも10.17点上昇し、過去5年間で最高であった。平均点の大幅な上昇や下降が生じないような難易度の管理が望ましい。
(7) 得点のちらばり	4	最低2点～最高8点という配点であった。おおむね設問ごとの難易度にふさわしい配点であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	1. の項目別評価を踏まえて総合的に評価すると、大学入試センター試験の試験問題としておおむね適切であった。

## 1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	5	学習指導要領及び教科書に基づいた出題範囲であった。近代史・現代史中心という科目の主旨がはっきりと反映された出題であった。
(2) 思考力	4	歴史事項の配列を問う問題では、理解と思考力を問う意図が見られたが、昨年度のようなグラフの読み取り問題がなくなった。地図等の問題でも、単に知識を問うのではなく歴史の流れを感じさせる出題が望ましい。
(3) 出題内容	5	近代史・現代史を中心に出题されたことや、地域がバランス良く出題されたことは評価できる。政治史の出題が多いことは教科書の記載量から妥当であるが、他の分野も複合させるなど工夫があるとさらに良い出題になったと思われる。
(4) 問題構成	4	出題数33問は、昨年同様だが、大問が4題、小問10題の構成となったため、より多様な観点からの出題となった。4点問題が単純な語句選択問題に充てられていたが、他より重みのある問題は、資料をもとに考察させるものなどに充てることが望ましい。
(5) 表現・用語	5	全体として受験者にとって、理解可能な適切な表現・用語が用いられており、解答に迷いは生じなかったと思われる。
(6) 難易度	4	正しい文章を選択させる問題の誤答の選択肢に、多くの教科書で扱われていない内容が見られる。受験者が使用している教科書によって難易度に差が出ることはないよう、出題の工夫が望まれる。
(7) 得点のちらばり	5	平均点は昨年度よりやや下がったが、得点のちらばりは、正規分布に近い形を描いており、適切な出題を示している。

## 2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	5	近代史・現代史から多く出題され、「世界史A」の主旨に合致していた。表やグラフを読み取って知的推論を働かせて解答する問題がないことはやや物足りないが、リード文に工夫が見られ、取り組みやすい内容であった。

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲を逸脱した設問は出題されていないが、学習指導要領の趣旨を反映させれば日本の歴史と関連した設問を増やす必要がある。
(2) 思考力	4	直接知識を問う設問は減少し、地図やグラフの読解などによって、思考力を様々な側面から問う設問が増えた。
(3) 出題内容	4	ほとんどの教科書に記載されている内容で解答できる設問になっている。時代的には「古代史」「中世史」に関する出題が増えバランスがとれた。
(4) 問題構成	4	設問数、試験時間、配点については適切だったと考えられる。設問の形式として、文章選択の設問が増加する一方で、事項選択の設問が減少した。
(5) 表現・用語	4	全体としては妥当であるが、一部の教科書にのみ記載されている用語が年表に採用されていた。
(6) 難易度	4	大学に入学を志願する者の学力を判定する問題の難易度としては適切であったと考えるが、平均点から判断すると、これ以上の易化は避けるべきだろう。
(7) 得点のちらばり	5	8割、9割台の得点層が最も厚く、分布としては偏りがあるが、受験者の学習の成果が反映されている結果であり、妥当であると考えられる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	リード文は読みやすく示唆に富む内容であり、各設問の難易度についても配慮がなされていた。すべて学習指導要領に沿って出題されており、年表や地図その他の資料の活用を通して歴史的思考力を問う問題が増加している。今後も出題形式の一層の工夫を期待したい。

## 1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	5	幕末から1970年代までの出題であり、扱われた内容も学習指導要領に即した適切な範囲で出題されていた。
(2) 思考力	5	「史料・グラフ・地図・図版等」からの出題がよく工夫されていた。また、複数の項目や分野にまたがった問題も多く、受験者の歴史的思考力を試す良問が多かった。
(3) 出題内容	5	項目別・分野別ともにとってもバランス良く出題されていた。図版を使う出題では、歴史的な思考力を駆使することによってでも正答に至ることができるよう、なお一層の工夫をお願いしたい。
(4) 問題構成	4	昨年度まで続いた34題から2題減って32題となった。そのため4点問題が4題出された。しかも受験者が苦手とする時代の並べ替えの問題が4題中3題であった。来年度以降も4点問題を出題するのであれば、受験者が得点しやすい問題を4点問題にさせていただくことをお願いしたい。
(5) 表現・用語	5	一問一答的な学習では判別することが難しい表現が見られたが、正しく理解していれば正答に至ることができた。リード文や史料を読み解けば分かるように、キーワードが適切に配置されており、歴史的な思考力を問う工夫が随所に見られた。
(6) 難易度	3	今年度の「日本史B」との共通問題、「日本史A」だけの問題ともに難化した。特に、「日本史B」でも難しいと思われる知識を問われることもあった。来年度は、標準2単位であることを踏まえ、「日本史A」だけの問題の難易度にはなお一層配慮をいただきたい。
(7) 得点のちらばり	4	低得点者に偏った分布となった。来年度以降、高得点者が多くなるような分布となるよう期待したい。

## 2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	良問である。新課程を意識し、受験者の思考力を問うとする意欲的、野心的な出題が見られ、現場に良い影響を与えられる。しかし、残念ながら難易度が高かった。来年度もこの姿勢で作問され、難易度が下がることを期待する。

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	5	時代別、分野別ともに、バランスよく広範囲にわたり出題され、学習指導要領に即した基礎的・基本的な内容が問われた。また、広く時代をまたぐ出題では、その配点が増加されている点も評価できる。
(2) 思考力	5	文献、地図・図版などの資史料を用いて歴史的考察に迫る出題では、資料活用させる上で、発問の方法や脚注に工夫が見られた。思考力を測る良問である。今後もこのような出題をお願いしたい。
(3) 出題内容	5	政治、外交、社会・経済、文化・思想の各分野を相互に関係づけて考察させる出題は、幅広い理解力を問う良問である。昨年度と異なり、独立・回復後まで出題された。今後も継続していただきたい。
(4) 問題構成	5	第1問では、時代を区切らないテーマ史の問題の配点が増加した。大きな時間軸の中で歴史事象の展開を判断させる出題者の意図は大いに評価できる。今後も継続していただきたい。
(5) 表現・用語	5	日記を用いたリード文は、受験者が、落ち着いて問題に取り組める配慮でもあった。今後も継続していただきたい。用語の表記についても語句の併記など各出版社で学ぶ受験者への配慮が見られた。
(6) 難易度	5	昨年と比較して、平均点は3.54点上昇し、平均点については65.55点であった。6年連続での62点超となっており、基本的な知識の理解を重視するという、センター試験の趣旨は貫かれている。
(7) 得点のちらばり	5	大多数の設問は標準レベルだったが、やや難度の高い設問や基礎的な知識を問う設問も散りばめられていた。得点がほぼ正規分布を指示していたことから、全体としてバランスの良い出題であったと考える。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	5	新学習指導要領の趣旨に基づいた出題であり、基礎・基本事項の定着度に加え理解力や歴史的思考力を測る良問であった。次年度以降も基礎的な学力を判定する方針を継続していただきたい。

## 1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	新課程に沿った範囲となっている。地理Aと地理Bの範囲は混同されやすく、いくつかの小問には、地理Aとしては精緻すぎる内容がみられた。
(2) 思考力	5	複数の図表を総合的に読ませる問題や教科書には直接的な表現はないが、学習内容から考察できる問題が提示されていた。
(3) 出題内容	4	おおむね、全範囲をカバーする問題となっていた。本試験は東南アジアからの出題が4問連続しており、他地域の地誌にも配慮がほしかった。
(4) 問題構成	5	適切であった。
(5) 表現・用語	5	おおむね適切である。指標の項目が長い言葉になる場合は表現に工夫があるとよい。(言葉の句切りやまとまりの判断がつきにくく、言葉の読解に時間がとられるため)
(6) 難易度	5	適切であった。高得点が出にくい難問を含んでいる。
(7) 得点のちらばり	5	おおむね適切であった。今年も満点はおらず、高得点層は薄かった。

## 2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	5	おおむね地理Aとしての範囲を逸脱せず出題されていた。図表、写真等丁寧に熟考されて作られている。新しい切り口も提示されており、高校の授業にも示唆に富む内容となっている。

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	5	本年度も、全般的に高等学校学習指導要領の目的や内容に沿った出題であった。出題範囲は、自然環境、資源と産業、都市と村落・生活文化、地誌の分野で、地誌からは世界地誌と新しく比較地誌の2つが出題された。
(2) 思考力	5	基本的な教科書レベルの問題のみならず、統計資料や画像などの地理情報や地理的知識に基づいて、考察力・思考力を必要とする問題が出題されている。また、歴史的背景、時系列的变化や地域の比較を踏まえて解答する設問もあり、工夫されたものであった。
(3) 出題内容	4	内容については、基本的な知識を問う標準的な問題も見られたが、地図や統計資料の読み取りなど「地理的な見方や考え方」を問う発展的な設問も多く組み込まれていた。また、教科書ではあまり扱われない内容を問う設問も、昨年に続き、多く含まれていた。
(4) 問題構成	5	設問数、配点ともに適切であった。地図、図表、写真を多数使用し、設問形式も「地理的な見方や考え方」及び「地理的技能」を問う工夫がなされていた。解答に迷いやすい問題も散見されたが、問題構成は標準的なものであった。
(5) 表現・用語	3	図表において、注釈が必要なものが多く、理解に時間がかかることや、元々カラー刷りの地勢図がモノクロで印刷されているため、思考や考察に戸惑ったと思われる。
(6) 難易度	4	今年度も、細かな知識を必要とする設問や教科書レベルをこえた設問や資料があり、多くの受験者が戸惑ったと考えられる。より深い知識と思考を問う設問も増加傾向にあり、解答に時間を要していると思われる。
(7) 得点のちらばり	3	「地理B」は、他の地理歴史B科目に比べて高得点を取りにくい特性がある。今回も、昨年に続き、難易度が高かったため、平均点および高得点者層の割合は、他の地理歴史B科目に比べ、低い結果となっている。この傾向は本年度も改善されておらず、今後もこれまで以上の配慮をお願いしたい。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	系統的な内容や地域のバランスに配慮され、多様な資料を用い、地理的知識や考察力・思考力を問う出題であった。平均点は60点を超えているものの、教科書レベルを超えた内容や細かな知識を問われた難問もあった。今後とも、受験者の地道な努力が報われるような出題をお願いしたい。



## 1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	5	新課程の高等学校学習指導要領の範囲から適正に出題されていた。
(2) 思考力	4	知識を活用し正答を選択する問題が多く出題されており、思考力を問う問題が昨年より減少した。様々な制約があると思うが今後も、思考力・判断力・応用力を必要とする出題を充実させていただきたい。
(3) 出題内容	5	新課程の学習指導要領の内容を意識したものであった。ほぼすべての分野・領域から出題されており、偏りはほとんど見られなかった。
(4) 問題構成	5	第1問は、新課程の学習指導要領を意識したリード文で、基本的な内容の問題から始まり、受験者に配慮した構成であった。社会的・教育的メッセージが強い優れたリード文が多かった。
(5) 表現・用語	5	誤解を招く表現や難解な表現は見られなかった。
(6) 難易度	5	一部に平易すぎる設問も見られたが、経済・国際分野は例年より手ごわい印象である。細かい知識を問う問題が増加した分、やや難化したのではないか。
(7) 得点のちらばり	5	ほぼ正規分布であり、適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	5	全体的に新学習指導要領の内容がよく反映され、今後の現代社会の授業の在り方を示したものであり、出題者の創意工夫が感じられる問題であった。

科目名	倫理
-----	----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	学習指導要領の範囲内ではあるが、学習指導要領が求めている網羅的な思想史の学習を必要とする設問も見られた。
(2) 思考力	4	思考力を問う設問の形式や選択肢に工夫が見られる。27の西田幾多郎の純粹経験の理解を問う問題、4や15といった資料読み取り問題などは応用力、思考力を要する問題として評価できる。
(3) 出題内容	5	全体的に見て、特定の分野に偏ることなく出題されている。ただ、青年期に関する出題はやや少なかったように思われる。
(4) 問題構成	3	設問数については適切であるが、基礎・基本レベルの問題に比べ、思考力・判断力・応用力を問う問題の比重がやや高いと思われる。3つの文章の正誤をすべて正しく判断しないと正解できない出題が昨年度よりさらに増加し、難化した一因となっている。また、全体の文章量も昨年度よりさらに増加し、受験者に時間の余裕はなかったと思われる。
(5) 表現・用語	4	特に難解な語句や表現はなく適切であった。ただし、19のリード文趣旨一致問題の正誤判定文中に、リード文で使われていない「トラー」（リード文では律法）という語句が使われたことで混乱した受験者もいたと思われる。
(6) 難易度	2	難しかった昨年度に比べてさらに難化した。正誤の組み合わせ問題については難易度の調整が大きな課題であり、受験者の倫理離れを懸念する。また、全体の文章量も増えており、総合的に難易度が高まる結果となっている。
(7) 得点のちらばり	4	ほぼ適正であるが、満点者が「公民」の中で唯一不在であるとともに、最高得点が全実施科目中、最低となっている。「倫理」の受験者数を考えれば、「得点のちらばり」という観点から最も正すべきである。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	学習指導要領・教科書の内容を基本的にふまえ、工夫された問題であったが、昨年度に比べれば、リード文のメッセージ性が若干弱くなったように感じた。基礎的・基本的な知識・理解を手掛かりに考察することで正解を導き出せるような良問の作成により、受験者の地道な努力が報われるような配慮を、今後ともお願いしたい。

## 1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	5	問題はすべて、高等学校学習指導要領の範囲内から出題された。
(2) 思考力	4	単に知識だけを問うにとどまらず、基本的な知識を基に思考力や応用力を問う問題、資料やグラフ・図を用いて読解力や分析力を問う問題が出題されていた。今後はさらにこのような形式の出題が増えることを期待する。また政治、経済の両分野から思考力を問う問題が出題されてはいるものの、若干経済分野への偏りがみられるため、改善を望みたい。
(3) 出題内容	5	昨年度の大問5問から今年度は大問4問になったが、政治分野と経済分野の融合問題が2問、政治分野、経済分野からそれぞれ1問ずつと、バランスよく出題されている。
(4) 問題構成	4	設問数は昨年度までの36問から34問に減少したが、解答時間に応じた問題数であると思われる。両分野における内訳は、政治分野が16問47点、経済分野が18問53点となり、昨年度と比較して経済分野の割合が増えたが、おおむね適切なものであった。しかし正組選択形式の出題が多く、全体的なバランスの改善を期待したい。
(5) 表現・用語	4	いずれのリード文も親しみやすく、政治や経済の諸問題に対する意識や関心を喚起するバランスのとれた文章であった。また、第3問のようにリード文を読ませる工夫もされており、受験者にリード文の重要性を意識させようとする意図が感じられた。一方、リード文と設問が部分的に乖離してしまっている問いもみられた。リード文との関連性を維持しつつ、受験者の正答を導く過程にも配慮された問題の作成を今後も希望する。
(6) 難易度	4	基礎と応用レベルにおける問題配分及び配点については、基礎レベルが30問、応用レベルが4問と適切であった。しかし、応用レベルがすべて経済分野であったこと、4問のうち3問が第4問に集中してしまったことは改善が望まれる。
(7) 得点のちらばり	5	政治分野と経済分野の配点や大問間における難易度については、今後もさらなる調整を希望する。

## 2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	大問が5問から4問に、設問数が36問から34問に減少したことは、社会が求めている思考力・判断力を問う問題への移行であると推測でき、その姿勢は高く評価できる。また、問題や難易度及び配点の構成などについてはバランスの取れた設問になっている。しかしながら、設問数が減少したにも関わらず、時事的・社会的な知識から諸問題を考えさせる設問が昨年度と比較して減少したこと、思考力・判断力を問う設問数が変わらなかったことなど、相対的に基礎的な知識を問う問題が増加した。その点において、さらなる工夫が望まれる。以上の観点を踏まえて総合的に評価すると、大学入試センター試験の試験問題としておおむね適切であった。

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	「倫理」分野については学習指導要領の範囲内ではあるが、学習指導要領が求めている網羅的な思想史の学習を必要とする設問も見られた。「政治・経済」分野については、すべて高等学校学習指導要領の範囲内から問題が出題された。
(2) 思考力	4	「倫理」分野については、思考力を問う設問の形式や選択肢に工夫が見られる。[8]の親鸞に関する理解を問う問題、[3]の資料読解問題等は応用力、思考力を要する問題として評価できる。「政治・経済」分野については、単に知識だけを問うにとどまらず、基本的な知識を基に思考力や応用力を問う問題、資料やグラフ・図を用いて読解力や分析力を問う問題が出題されていた。今後はさらにこのような形式の出題が増えることを期待する。
(3) 出題内容	5	昨年度同様、大問6問のうち、「倫理」分野と「政治・経済」分野が3問ずつ出題された。両分野とも全体からバランスよく出題されていた。
(4) 問題構成	4	設問数は昨年度までの39問から37問に減少したが、設問内容は「倫理」分野が19問、「政治・経済」分野が18問で、配点は50点ずつであった。「倫理」分野については、設問数については適切であるが、基礎・基本レベルの問題に比べ、思考力・判断力・応用力を問う問題の比重がやや高いと思われる。また、全体の文章量も昨年度よりさらに増加し、受験者に時間の余裕はなかったと思われる。「政治・経済」分野では正組選択形式の出題が多く、「倫理」分野ともども全体的なバランスの改善を期待したい。
(5) 表現・用語	4	「倫理」分野では、特に難解な語句や表現はなく適切であった。「政治・経済」分野については、いずれのリード文も親しみやすく、政治や経済の諸問題に対する意識や関心を喚起するバランスのとれた文章であった。リード文を読ませる工夫もされており、受験者にリード文の重要性を意識させようとする意図が感じられた。一方、リード文と設問が部分的に乖離してしまっている問もみられた。
(6) 難易度	4	「倫理」分野では、思考力・判断力・応用力を問う問題の比重がやや高く、全体の文章量も多かったためやや難易度が高かった。「政治・経済」分野については、基礎的な知識を問う標準的な問題が多かったが、正確かつ詳細な知識が要求される問題もあった。
(7) 得点のちらばり	5	ほぼ適正であるが、設問間の難易度については、今後もさらなる調整を希望する。

## 2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	<p>「倫理」分野については、学習指導要領・教科書の内容を基本的にふまえ、工夫された問題であったが、昨年度に比べれば、リード文のメッセージ性が若干弱くなったように感じた。基礎的・基本的な知識・理解を手掛かりに考察することで正解を導き出せるような良問の作成により、受験者の地道な努力が報われるような配慮を、今後ともお願いしたい。</p> <p>「政治・経済」分野については、リード文は、現代社会の諸問題に対する意識や関心を喚起する内容であり評価できる。問題は基礎的な知識を問うものを中心にしながら、思考力、判断力や応用力を問う出題もあり工夫されていた。今後は、基礎的知識を活用して思考する力を問う出題の充実をより一層期待する。</p> <p>以上の観点を踏まえて総合的に評価すると、大学入試センター試験の試験問題としておおむね適切であった。</p>

科目名	数学 I
-----	------

### 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	5	高等学校学習指導要領に定める範囲内での出題であった。
(2) 思考力	5	第1問〔1〕(3)や第4問〔2〕(3)など、思考力や応用力を問う問題があり、十分に評価できる。
(3) 出題内容	5	1次関数が出題されたのは目新しい。特定の分野・内容に偏りがなく出題されていた。
(4) 問題構成	5	設問数、配点、設問形式等適切である。教科書の順番に沿ってどの問題も解きやすい問から段階的に並べられており、評価できる。
(5) 表現・用語	5	問題の文章表現、用語に関しては、適切であった。
(6) 難易度	5	学習の達成度を正しく評価できる出題であり、適正であった。
(7) 得点のちらばり	5	受験者層を考えると、得点のちらばりは適正であった。

### 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	5	以上の観点を踏まえて、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。

### 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	5	高等学校学習指導要領に定める範囲内での出題であった。
(2) 思考力	5	第2問〔1〕、〔3〕(3)など、思考力や応用力を問う問題があり、十分に評価できる。
(3) 出題内容	5	2次関数に代わり、1次関数が出題されたのは目新しい。特定の分野・内容に偏りがなく出題されていた。
(4) 問題構成	5	設問数、配点、設問形式等適切である。おおむね教科書の順番に沿って解きやすい問から段階的に並べられており、評価できる。
(5) 表現・用語	5	問題の文章表現、用語に関しては、適切であった。
(6) 難易度	4	学習の達成度を正しく評価できる出題であったが、選択問題において第3問の難易度は低かった。
(7) 得点のちらばり	5	得点のちらばりは適正であった。

### 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	5	以上の観点を踏まえて、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	5	高等学校学習指導要領にそった内容であった。
(2) 思考力	5	数学的な思考力が、十分に評価できる問題であった。
(3) 出題内容	5	全範囲から適切に出題されていた。
(4) 問題構成	5	試験問題の設問数、配点ともに適切であった。
(5) 表現・用語	5	問題の文章表現、用語に関しては、適切であった。特に、先の解答の見通しが立つような問題文の表現が工夫されていた。
(6) 難易度	5	難易度は適正であり、学習の到達度を正しく評価できる出題であった。基本から発展的な問題までバランスよく出題されていて、計算量も適正であった。
(7) 得点のちらばり	5	適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	5	以上の観点をつまえて、総合的に上記評価値で評価すると、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。



## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	5	高等学校学習指導要領にそった内容であった。
(2) 思考力	5	数学的な思考力が、十分に評価できる問題であった。特に変化を視覚的に捉えるなどの問題は良問である。
(3) 出題内容	5	全範囲から適切に出題されていた。特にグラフの位置関係を考える問題は基本的な問題であり良問である。
(4) 問題構成	5	試験問題の設問数、配点ともに適切であった。
(5) 表現・用語	5	問題の文章表現、用語に関しては、適切であった。特に、先の解答の見通しが立つような問題文の表現が工夫されていた。
(6) 難易度	5	難易度は適正であり、学習の到達度を正しく評価できる出題であった。基本から発展的な問題までバランスよく出題されていて、計算量も適正であった。
(7) 得点のちらばり	5	適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	5	以上の観点を踏まえて、総合的に上記評価値で評価すると、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	5	全ての問題において、「学習指導要領」の範囲・株式会社の会計の基礎的事項から出題されており、適切である。
(2) 思考力	5	各問いに思考力、応用力を問う問題が組み込まれており、適切である。
(3) 出題内容	5	出題内容は精選されており、特定の教科書や分野、領域に偏ることなく、適切な内容である。
(4) 問題構成	4	日々の学習の中心的な領域に配慮された問題である。資料もおおよそ把握しやすく、設問数や設問形式は適正である。第1問は、A～Cの3分割で出題され、解答しやすいよう工夫されている。
(5) 表現・用語	5	教科書に準拠した表現であり、受験者への配慮がみられ適切である。
(6) 難易度	4	全体的に問題の難易度が上がっており、解答しやすい問題であったが、平均点が目標を2.29点下回っている。
(7) 得点のちらばり	4	得点分布を見ると、55点から64点ぐらいにピークがあり、約53%の受験者が平均点を上回っている。左右になだらかな正規分布曲線を描くと理想的である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	5	以上の観点を踏まえて、総合的に上記評定値で評価すると、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。

### 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	5	高等学校学習指導要領の範囲に沿い適切であった。実施要項の「出題方法等」の表記について、共通教科「情報」との関連を明記することを検討してほしい。
(2) 思考力	5	知識のみでなく、思考力や応用力を問う問題がバランスよく配置されていた。
(3) 出題内容	5	特定の教科書や分野・領域への偏りはなかった。
(4) 問題構成	4	選択問題によって問題数が9問増加した。配点、設問形式等は適切であった。
(5) 表現・用語	4	同じ解答が連続して続くなど、配慮が求められる部分が一部あった。
(6) 難易度	5	全体としては基礎的な学習の達成度や思考力を判断するのに適切であった。
(7) 得点のちらばり	5	おおむね適正な分布であった。

### 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	5	以上の観点を踏まえて、総合的に上記評価値で評価すると、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	5	高等学校学習指導要領「工業数理基礎」に示されている「(1)工業の事象と数式」「(2)基礎的な数理処理」「(3)応用的な数理処理」からバランスよく出題されている。「(4)コンピュータによる数理処理」については、数理処理をコンピュータで行うことを目的とした学習範囲のため、出題範囲としてはその前段階である数理処理を優先しているものと考えられる。
(2) 思考力	5	各問題とも、説明文と図表を理解し、設問に応じてそれらを活用しながら解く内容となっている。説明文が丁寧であり、標準的な数理処理が展開されているため、受験者が素直に読解し、思考することによって解答に至る。
(3) 出題内容	5	工業に関する具体的な事象を題材としてバランスよく出題し、「立式」をはじめ、「式変形」「定積分」「三角関数」を活用しながら、数理処理を行う内容となっており、高等学校学習指導要領に定める科目の目標と狙いに沿っている。受験者の専攻学科による不公平感を無くすため、解答へ至る丁寧な説明文や図表が与えられている。
(4) 問題構成	4	各問題とも、基礎的な設問から始まり、数理処理のどの段階で問うのかによって、知識・思考力・応用力等のどの力を問うのかが調整されている。大問は小問で区切られており、直前の小問が解けなくても解答できる構成となっている。丁寧な数理処理が必要とされる問いの配点を上げると良い。
(5) 表現・用語	5	各問題の文頭には、問題を解く目的を示すことによって、受験者を技術者の視点に立たせ、興味関心を引き出すような工夫がされている。専門的な用語は、与えられた数式や図表からも理解でき、付与した記号も適切である。
(6) 難易度	5	解答に至るまでの数理処理の手数と数理処理のどの段階で問うかによって、難易度が調節されている。いずれも「工業数理基礎」で取り扱う内容であり、特定の工業分野に偏ることなく、数学（三角関数や定積分）や物理（力学）の理論を活用する良問で構成されている。高等学校学習指導要領に定める科目の目標と狙いに沿っており、受験者の学習到達度の判定ができる。
(7) 得点のちらばり	5	受験者が4名であり、その得点分布から判断することは難しいが、3つの大問において、解答を得るまでの思考や数理処理の手数をもとにした配点がされており、受験者の学習到達度によって適切な得点が得られる出題内容となっている。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	5	以上の観点から、受験者の学習到達度を正しく判定するとともに、全体的に受験者にとって取り組みやすい出題内容となっている。高等学校学習指導要領に定める科目の目標と狙いに沿っており、大学入試センター試験の問題としてのみならず、工業高等学校の日常の授業における教材としても活用できる良問である。

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	5	高等学校学習指導要領の範囲内から出題されている。
(2) 思考力	5	基本的な物理現象の理解を問う問題が多く、物理的な思考力が問われる問題は少なかったが、科目の特性を考えれば適切である。
(3) 出題内容	4	高等学校学習指導要領に示す範囲で各分野からバランスよく出題されていた。しかし、熱の内容の出題はなかった。
(4) 問題構成	5	設問数・配点はおおむね適切であった。
(5) 表現・用語	5	簡潔で読み取りやすい表現となっていた。
(6) 難易度	5	全体的には、高等学校における学習の達成度をみるためにふさわしいものとなっていた。
(7) 得点のちらばり	5	得点の散らばりは適切なものとなっていた。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	5	短い試験時間の中で、学習の達成の程度をみるために適切な題材が工夫して出題されていた。全体を通して、問題の難易度や形式のバランスが取れた試験問題であった。

科目名	物理
-----	----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	5	高等学校学習指導要領の範囲内から出題されている。熱の問題で、物理基礎の範囲から出題されたものがあった。
(2) 思考力	4	基本的な知識や理解について問う問題が中心であった。現象の変化を予測させるなどの思考力を問う問題がもう少し出題されても良かった。
(3) 出題内容	5	高等学校学習指導要領に示す4分野からバランスよく出題されていた。各分野の学習量に応じた適切な配分となっていた。
(4) 問題構成	4	文字計算の形式の問題に偏っていた。図やグラフを選択させる問題はなかった。複数の問いを組み合わせる形式の問題が増えすぎると実質的な問題量が増加するため、配慮をお願いしたい。
(5) 表現・用語	4	問題文は簡潔で読み取りやすく誘導が丁寧であり、受験者は解きやすかったと思われる。ただし、図の表現や問題の構成等について一部気になる点が見られた。
(6) 難易度	5	全体的には、高等学校における学習の達成度をみるためにふさわしいものとなっていた。しかし、物理の受験者層（理系で理科を得意とする生徒が主）からすると平均点はもう少し高くても良い。
(7) 得点のちらばり	5	得点の散らばりは適切なものとなっていた。標準偏差は、ここ何年か大きくなっている。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体を通して、出題分野や難易度のバランスが取れた試験問題であった。授業で扱えるような探求活動的な内容や身近な物理現象を題材とした出題があればなお良かった。

## 1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	5	高等学校学習指導要領に準拠し、教科書に記載されている内容を素直に問う問題が多く、学習内容の達成度を確認するための適切な問題となっている。
(2) 思考力	5	思考力を問う問題は、解答数16のうち5題出題された。「化学基礎」という科目の性質と限られた解答時間を考慮すると、適切である。
(3) 出題内容	5	化学と人間生活・物質の構成・物質の変化の各分野からバランスよく出題されていた。内容的には高等学校学習指導要領に準拠し、教科書に記載されている内容を素直に問う問題が多く、学習内容の達成度を確認するための適切な問題となっている。身の回りの物質と化学を結びつける出題は、化学に対する興味・関心を高める上でも重要な意味を持つので、今後も続けていただきたい。ただし、化学と人間生活の分野では、教科書によって取り扱いが異なる場合も多く、出題内容に工夫をお願いしたい。「実験・観察」に関する問題は、1問のみである。「実験・観察」に関する問題は、題材選びなど特に問題作成には困難を伴うことが予想されるが、実験の重要性を教育現場で意識させる観点からも引き続き積極的に出題していただきたい。
(4) 問題構成	5	小問数14、平均選択肢数5.1であった。「複数解答組合せ問題」が2問出題されたが、関連性のあるものなので特に問題ないと判断する。今後も配慮をお願いしたい。
(5) 表現・用語	4	できるだけ問題文・条件を簡潔にし、平易な表現となるように工夫されており、出題者の配慮が見られる。教科書によって取り扱いが異なる場合も多く、受験者に分かりやすい表現や用語の使用を引き続きお願いしたい。
(6) 難易度	4	基本的問題が10問、標準的問題が4問、発展問題が2問出題された。計算問題は数値を工夫し、時間配分を考慮した問題であった。来年度以降は平均正答率が6割程度の難易度となるようお願いしたい。センター試験の平均点や難易度は受験者の科目選択に大きな影響を及ぼすため、今後もバランスのとれた難易度の問題を工夫していただきたい。
(7) 得点のちらばり	5	高得点層に偏りがあると思われるものの、「化学基礎」という科目の性質上、適当である。

## 2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	5	出題範囲や内容は学習指導要領の範囲内で、化学基礎の本質に対してできるだけ純粋な問いかけをしようとしている作題者の出題の意図・ねらいは十分に感じとることができた。高等学校における「化学基礎」の基礎的な学習の達成度を見るにふさわしい、工夫された出題であった。

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領に準拠し、教科書に記載されている内容を素直に問う問題が多く、学習内容の達成度を確認するための適切な問題となっている。ただし、一部に「化学基礎」からの出題があった。本来であれば「化学」の範囲内からの出題が望ましいが、「化学」の内容を理解する過程において、「化学基礎」の知識が必要不可欠であることを鑑みれば妥当であると判断される。ただし、今後も「化学基礎」の内容が出題されるのであれば、受験案内の出題範囲に明記するなど受験者への周知をお願いしたい。
(2) 思考力	5	思考力を問う問題の出題が14または15問（必答13、選択1または2）であった。これは、昨年度の11問より増加した。特に、第3問の間5、第4問の間5は実験を通して、総合的に思考力を問う良問であった。全体的には基礎的な学習の到達の程度を判定するというセンター試験の目的から妥当であるといえる。
(3) 出題内容	4	大問6問（必答5、選択1）からの構成であり、「化学」の各分野からバランス良く出題されていた。「実験・観察」「図表・グラフ」に関する出題は4問（必答のみ）であり、昨年度の9または10問と比較して減少した。これらの問題は、実験・観察の重要性を教育現場で意識させる観点からも、より積極的に出題をお願いしたい。
(4) 問題構成	5	小問数27（必答25、選択2）、解答数30（必答27、選択3）または29（必答27、選択2）であり、昨年度と大きな変動はなかった。しかし、大問数が1問増えたことにより、受験者には「大問数の変動はあり得る」という認識を与えた。
(5) 表現・用語	5	できるだけ問題文・条件を簡潔にし、平易な表現となるように工夫されており、出題者の配慮が見られる。第4問問2の問題文中の「新しくつくられる炭素との結合」という表現がやや分かりにくいので、下線を引くなどの配慮をお願いしたい。受験者に分かりやすい表現や用語の使用を引き続きお願いしたい。
(6) 難易度	4	発展的問題の出題数は4問であった。これは昨年度の8問（第6問選択の場合は7問）より減少した。その一方で、計算問題が昨年度より1問増加したことにより、受験者の解答時間に影響し、平均点の変動につながったものと推察される。
(7) 得点のちらばり	5	平均点は54.48点、標準偏差は20.94であった。適度に広がりを持っており、受験者の力量に応じた得点分布となっている。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	5	新教育課程の高等学校学習指導要領による第2回目の試験の作題にあたっては、高等学校教育現場の関係者の意見・要望に相当の配慮が細くなされていた。作題者に深く敬意を表したい。全体的に見ると、出題範囲や内容は学習指導要領の範囲内で、化学の本質に対して純粋な問いかけをしており、受験者に対する作題者の出題の意図・ねらいが十分感じられた。



科目名	生物基礎
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	5	出題範囲は、高等学校学習指導要領に基づく内容や範囲から全体にわたってバランス良く出題されていた。
(2) 思考力	3	知識問題が多かった。本試験では思考力や応用力等を問う設問が見られたが、追試験では少なかった。
(3) 出題内容	5	教科書の内容に準じた基礎的、標準的な設問が中心であった。出題内容については、特定の教科書や特定の分野・領域に大きな偏りは見られなかった。
(4) 問題構成	3	設問数並びに、問題の内容に応じた配点はおおむね適切であった。設問形式並びに、総選択肢数もおおむね適切であったが、組合せ選択が多く、細かすぎる知識（数値、生物例など）が要求されていた。
(5) 表現・用語	5	一部訂正があったが、文章表現・用語については、適切であった。
(6) 難易度	3	昨年の生物基礎と比較すると、難易度はほぼ変わらない。①新課程2年目である、②基礎科目は2科目受験する、③基礎科目を受験科目としている大学のほとんどが文系学部である、ということ考えると、受験者にとっての難易度はやや高かったと考えられる。
(7) 得点のちらばり	4	得点のちらばりとしては、高得点者が少ない傾向が見られた。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	生物基礎の全範囲からバランス良く出題されており、また、本試験では考察を含めた思考問題を取り入れるなど、一定の改善が見られた。生物基礎としての難易度はやや高く、かつ、高得点者が少ない傾向が見られた。平均点とも併せ、選択科目による有利不利が生じないような作問を強くお願いしたい。

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領に基づく内容から全体にわたってバランス良く出題されていた。新課程の「生物」で扱う内容は、旧課程に比べるとかなり広範囲で詳細なものになっており、選択問題も分野別ではないので、受験者の負担は大きいと思われる。
(2) 思考力	4	思考力を要する実験考察問題は、今年度も豊富であった。本試験よりも追試験に思考力を必要とする良問が多かったため、そのような問題がもう1題程度でも本試験にあっても良かったと思う。また追試験には、そのような問題がやや多過ぎたような感もある。
(3) 出題内容	5	教科書の内容に準じた標準的な設問が中心であり、特定の教科書や特定の分野・領域に偏った出題は見られなかった。
(4) 問題構成	3	問題の内容に応じた配点はおおむね適切であった。選択問題の必要性及び内容については、検討の余地があると思われる。分野横断型の問題は必答でよい。選択形式にするならば、事前に予告したうえで分野別の選択にするなどでなければ、試験時間における受験者の負担ばかりが大きくなってしまふ。
(5) 表現・用語	5	一部に訂正があったが、文章表現・用語については、適切であった。
(6) 難易度	3	本年度は昨年度に比べ平均点は大きく上昇したが、問題が大幅に易化したということではない。①実施2年目で高校教育現場及び受験者の対策が進んだ、②設問数と組合せ選択問題の減少により受験者が思考する時間を確保できた、③昨年度と異なり受験者に浪人生もいる、ということにより平均点が上昇したと考えられる。難易度は今年度程度がおおむね適正である。選択問題で、難易度に差があるのは適切ではない。
(7) 得点のちらばり	4	おおむね適正であったが、95点を超える高得点者が少なかった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全範囲から詳細な知識を必要とする問題が出題されており、一つ一つの問題は熟考された良問であるが、設問数が多いゆえに思考の連続性が保たれず、受験者の思考の時間が十分に確保できたか疑問が残る。2年目で対策が進み、平均点は適正になったが、難易度は十分に高い。選択問題については、様々な面で再検討をお願いしたい。

科目名	地学基礎
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	5	高等学校学習指導要領に基づく「地学基礎」の内容、範囲から出題されていた。
(2) 思考力	5	教科書に基づく基礎的な知識を重視しつつ、学習内容の義務教育との系統性も踏まえて、科学的な思考力、応用力、総合力を判定する問題が適度に出題されていた。
(3) 出題内容	5	固体地球、岩石・鉱物分野、地質・古生物、大気・海洋、宇宙、自然環境の5分野からバランスよく出題され、高等学校段階における基礎的な問題を中心に応用力・理解力を判定する内容であった。分野横断的な出題が増加していることは、望ましい出題傾向であった。
(4) 問題構成	4	設問数・配点はともに適切であった。設問形式は、図・表・グラフなどが効果的に用いられた問題が増え、科学的な思考力・応用力・総合力に基づく、幅広い分野の達成度を判定するためによく考えられた出題であった。また、選択肢が4つに統一されたことにより、受験者の負担がかなり解消された。
(5) 表現・用語	5	正誤組み合わせがなくなったことなど選択肢が改善されたことで、受験者を惑わせるような設問がなくなった。全体的には、表現・用語ともに適切であった。
(6) 難易度	5	平均点からは易しかったと感じられるが、幅広い知識や能力が着実に身に付いていることを確かめる設問が増え、かつ、地学基礎受験者の学力層を鑑みると、総合的には適切な難易度であった。
(7) 得点のちらばり	4	ほぼ正規分布に近く、バランスが取れている。満点が多くみられるが、これは昨年度の問題に対する受験者の準備対策がなされた成果であろう。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	5	以上の観点踏まえて、設問内容は地学基礎の学習達成度を測るため、基礎知識・科学的な思考力・判断力・洞察力を総合的に問う問題で構成されており、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。

科目名	地学
-----	----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	5	高等学校学習指導要領「地学」の内容、範囲から出題されていた。
(2) 思考力	5	教科書に基づく基礎的な知識を重視しつつ、学習内容の義務教育との系統性も踏まえて、科学的な思考力・応用力・総合力を判定する問題が適度に出題されていた。
(3) 出題内容	5	固体地球、岩石・鉱物、地史・地質、大気・海洋、天文の5分野からおおむねバランス良く出題されていた。教科書によって取り扱いが異なる内容（宇宙の晴れ上がり）に関する出題は、選択問題とした配慮があった。
(4) 問題構成	4	昨年度に比べて部分点がなくなり、シンプルな配点と選択肢が適正であった。例年どおりの設問数も妥当であったと考えられる。設問形式は、図・表・グラフなどが効果的に用いられ、分野横断的な問題も多く、選択肢も工夫されており、幅広い分野の達成度を判定するためによく考えられた出題であった。選択問題によっては、天文分野がやや高配分になるが、難易度が高い問題となっており、学校段階における基礎的な問題を中心に応用力・理解力を判定するのに適した内容構成であった。
(5) 表現・用語	4	昨年度に比べると、曖昧な表現や理解に時間がかかる用語が減少した。一方で、問題文がよく練られており、しっかり読み込んでから考えて判断する必要がある選択肢が多かった。年周光行差に関する問題では、空間認識の思考を助けるための簡単な図が欲しかった。
(6) 難易度	3	選択肢の設け方、文章表現や配点などに関して十分な配慮がなされ良問が多かった。また、単一分野の基礎的知識内容を問う問題が少なく、多分野の知識を総合して判断する問題が多かった。効果的な計算問題とも相まって、各設問で思考のために時間がかかり、低い平均点につながったと考えられる。
(7) 得点のちらばり	3	平均点のピークが低く、60点以上の上位層が非常に少ない。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	以上の観点を踏まえて、基礎知識、科学的な思考力、判断力、洞察力を総合的に問う問題で構成されており、大学入試センター試験の試験問題としておおむね適切であった。難易度に関して、基礎的知識の定着を試す問題がもう少し必要であった。

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	5	高等学校学習指導要領の範囲内であり、使用している語と文法事項等は基本的なものが多く、大半が無理なく読めるものであった。
(2) 思考力	5	発音・文法・慣用表現等の知識を確認する問題だけではなく、読解力や作文力、情報処理能力等、幅広い思考力が問われた。また、推測する力や応用力が問われる問題も見受けられた。
(3) 出題内容	5	使用されている題材は、様々な分野からのものであり、普段から多様な内容の英文に触れておくことの大切さを示唆する出題内容であった。また、男女間、居住地間等に関する公平さを欠く問題もなく、受験者にとって、無理なく取り組めたと思われる。
(4) 問題構成	5	大問ごとに問いたい内容が明確で、設問数・配点も偏りがなかった。選択肢はアルファベット順で統一されており適切である。
(5) 表現・用語	5	難解な語や不自然な表現がなく、表現・用語は英語、日本語とも適切であった。
(6) 難易度	5	問題は、易しいものから、難しいものまで含まれており、弁別性が認められる。語数は昨年に比べやや減り、平均点はほぼ昨年並みであった。難易度は適正なものであった。
(7) 得点のちらばり	5	得点のちらばりは適正であったと思われる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	5	高等学校学習指導要領、教科書の内容を踏まえ、無理なく取り組める問題であった。マークシート方式という制約がある中で、コミュニケーション能力を多方面から測ろうとしている。今後もコミュニケーション能力を重視した学習の成果を問う問題を、継続して出題していただきたい。

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	5	いずれの設問も、高等学校学習指導要領「外国語」の範囲内での出題であり、学習の成果を問うものとして、おおむね適切な出題であった。
(2) 思考力	5	聞き取った複数の情報を、総合的に勘案して正答を導くよう工夫されていた。
(3) 出題内容	5	日常生活に関する様々な話題や場面を扱っており、学習指導要領に示された「言語の使用場面」、「言語の働き」の観点によく配慮した、適切な出題内容であった。
(4) 問題構成	5	新たな出題形式となった第4問Bは、3人の生徒による話し合いの場面が取り上げられた。これにより、授業内のコミュニケーション活動に、ペア・ワークのみならず、グループ・ワークの形式を設定することが推奨され、教育現場への波及効果の面からも、大いに評価できる。
(5) 表現・用語	4	スクリプトには、日常の英語コミュニケーションにおいてよく耳にする表現が多様に組み込まれるなど、自然な会話となるよう、いっそうの配慮がなされており、高く評価できる。しかし、音声が無声で伴っていないと感ぜられるところがあった。
(6) 難易度	5	平均点は、30.81点（得点率61.61%）と適切であった。情報の記憶に過度な負荷がかかるような出題はなく、英語のリスニング問題として適切であった。
(7) 得点のちらばり	5	得点30点を頂点とした、バランスのよい分布となっている。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	5	学習指導要領の趣旨を踏まえ、工夫の凝らされた問題であり、日常使われる自然な表現や、受験者が将来経験するであろうコミュニケーションの場面を取り入れており、高く評価できる。

科目名	ドイツ語
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	例年と同じく、準拠すべき基準を持たないため判断は難しい。評価委員会の判断基準を「高校で3年程度ドイツ語を学んだ受験者を選抜する」試験とするならば、特に不適切な出題はなかった。
(2) 思考力	5	解答に至るまでに複数の要素が関連し、思考力が試される出題が増えた。
(3) 出題内容	4	日常会話に関する内容が多く取り上げられてはいるが、第6問では脳科学の分野についての長文が出題されるなど、出題内容のバランスを取ろうとしているように感じた。
(4) 問題構成	5	第1、2問の文法知識を問う出題が3問減り、第3問の問題数が1つ増加し、配点が1点ずつ増えたことにより比重が大きくなった。配点の高い出題の難易度が高く設定されていると言える。
(5) 表現・用語	5	例年どおり、適切な表現・用語が使用されていた。
(6) 難易度	5	全体の使用ドイツ語数とドイツ語での出題が増えたことで、難易度が上昇した。今年度以降、年々試験が難化していくことは避けていただきたい。
(7) 得点のちらばり	4	母集団が少ないため、統計的に意味のある分布とは思われないが、各設問とも難易度に比例した正答率となっており妥当と思われる。

## 2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	5	新課程に合わせ、よりコミュニケーション力や思考力を測る出題が増えた。「容易すぎる」設問も改善され、平均点は低下したものの、「入学者を選抜する」入試問題としての価値は高いと判断する。

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	5	受験者の実態に十分適合していた。
(2) 思考力	4	受験者の思考力を要求する問題がもっとあってもよい。
(3) 出題内容	5	おおむね適正であった。
(4) 問題構成	5	受験者が取り組みやすい構成であった。
(5) 表現・用語	4	難易度の高すぎる語彙、表現は多くなかったが、受験者の到達度を考えるともう少し工夫がほしい。
(6) 難易度	5	受験層の学力を識別できる問題であった。
(7) 得点のちらばり	5	適正な散らばりであったと思われる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	5	これまでの高校側との話し合いで問題になった点を考慮し、工夫がなされた問題であった。フランス語に時間をかけて学習している高校生たちが、理解する喜びを感じ意欲を励まされる機会となった。



科目名	中国語
-----	-----

## 1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	学習指導要領では英語以外の科目は「英語に準じて」とあるのみで明確な学習の指針となる範囲はない。1学年4単位で三年間学ぶと考えた場合、妥当な出題範囲と考えられる。
(2) 思考力	4	会話文や長文読解において、前後関係から内容を類推させたり選択肢の文章も丁寧に読み進めたりしないと正答できないなど、工夫されている。
(3) 出題内容	4	発音・語句の用法・表現・短文や会話文の読解・長文読解の各分野ともバランス良く出題されている。長文の内容も文学的な文章と評論的な文章が扱われ、今後もこの傾向を維持していただきたい。
(4) 問題構成	4	設問数・配点は適切である。第4問Aにおいてアルゴリズムの表示が丁寧すぎるために難度が下がった。また、第5問の長文問題では和訳に偏った設問形式になっている。
(5) 表現・用語	5	文章表現・用語は適切である。
(6) 難易度	5	(1)出題範囲で示したような単位数を学習する生徒が受験すると考えると妥当である。昨年度と今年度のレベル以上に難度が上がらないよう考慮していただきたい。
(7) 得点のちらばり	5	高得点に分布が偏る傾向があることは中国語の特性上やむを得ない面がある。過去あったような二つの山がなくなってきたことは高校から学習を始めた生徒にとって適切なものになってきたと言える。

## 2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	高校側の意見を取り入れて改善を加え出題して下さっていることに感謝申し上げたい。高校から学習を始めている生徒がセンター試験を受けることは英語のみ学習している生徒に比べ価値あることを考慮し取り組んでいただきたい。

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	韓国語能力検定Ⅱ（3～4級）の範囲にはほぼおさまっており適当である。
(2) 思考力	3	第1問、第2問に、知識のみを問う問題が多く見受けられる。改善が必要。
(3) 出題内容	4	特に問題はない。適当である。
(4) 問題構成	4	第4問、第5問の長文の量が若干多い。
(5) 表現・用語	4	特に問題はない。適当である。
(6) 難易度	4	純粋学習者の学習範囲内に近づいては来ているが、まだ依然難易度は高すぎる。
(7) 得点のちらばり	4	特に問題はない。適当である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	さらに「純粋学習者」の受験者数が増えるような作問を望む。